

発表番号	チーム名	いのちの仕事人
	担当者【所属名】	福間、林、木下、片岡【福祉・援護課】 金子、熊取谷、マルコン、清水【精神保健福祉総合センター】 各保健所関係職員、自殺防止対策プロジェクトチーム員
I-6		

タイトル	つながることがいのちを支える～点から線、線から面へ～
------	----------------------------

アピールポイント	昨年4月新たに設置された自殺防止対策担当を中心に、部内から庁内、関係機関へとネットワークを広げ取組を推進しています。
----------	--

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の自殺者数は464人と15年ぶりに500人を下回り、自殺死亡率（人口10万人あたりの自殺者数）が全国最低となったが、依然として交通事故死者数の約4倍、毎日1人以上の方が自ら命をたっている。 ・ 自殺対策については、京都府自殺ストップセンターやいのちの電話など行政や民間の相談窓口が複数存在するが、これまで横の連携をとる場がなかった。 ・ また、部内関係課との連携、庁内関係課との連携も不十分であった。 ・ さらに、専任担当がなかったため保健所や市町村との連携も十分ではなかった。
----	--

改善内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部内ワーキンググループ（本庁関係課、保健所、精神保健福祉総合センター）を設置し意見交換実施（H24.5） ・ ほぼ毎日メールニュースを庁内外の関係者に配信開始（H24.5～） ・ 各保健所福祉室と事業の進め方について意見交換（H24.5～） ・ 関係課からなる自殺防止対策プロジェクトチームを設置（H24.7） ・ 府内の自死・自殺関連相談機関からなる連絡会議を開催（H24.9） ・ 市町村・保健所自死・自殺対策担当者会議（研修会）を開催（H24.11）
------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本庁だけで事業を進めるのではなく、中身をつくる段階から保健所や精神保健福祉総合センターをはじめとする関係機関の意見を聞きながら進めてきたことにより、チームで自殺対策に取り組むという意識が高まった。 ・ メールニュースをきっかけに、保健所や市町村の担当者、またNPO等民間団体との関係づくりがスムーズにいくようになった。 ・ 自殺防止対策プロジェクトチームの設置により、部局を超えて自殺対策の取組を議論する場ができ、予算にも反映された。 ・ 平成24年は、自殺死亡率が全国一低い府県となった。
----	--

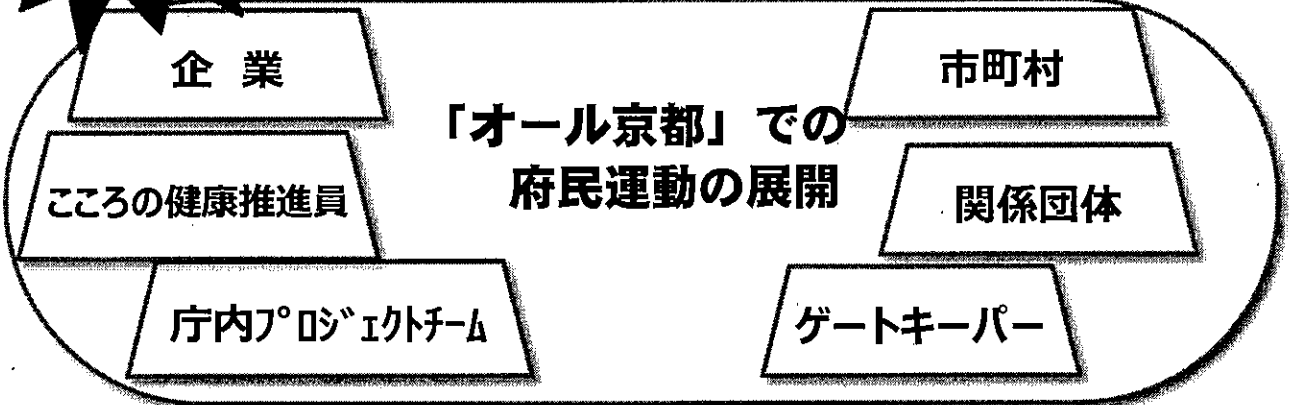
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県初の自殺対策条例（仮称）を制定し、自殺予防の取組を府民運動化。 ・ 自死・自殺関連の相談機関との連携を密にし、「京のいのち支え隊」として、オール京都で悩みを抱えた人に寄り添い支援していく仕組みをつくる。 ・ 圏域ごとに市町村や関係機関からなる支援ネットワークをつくり、府全域に支援の輪を広げていく。
-------	---

いのちの仕事人

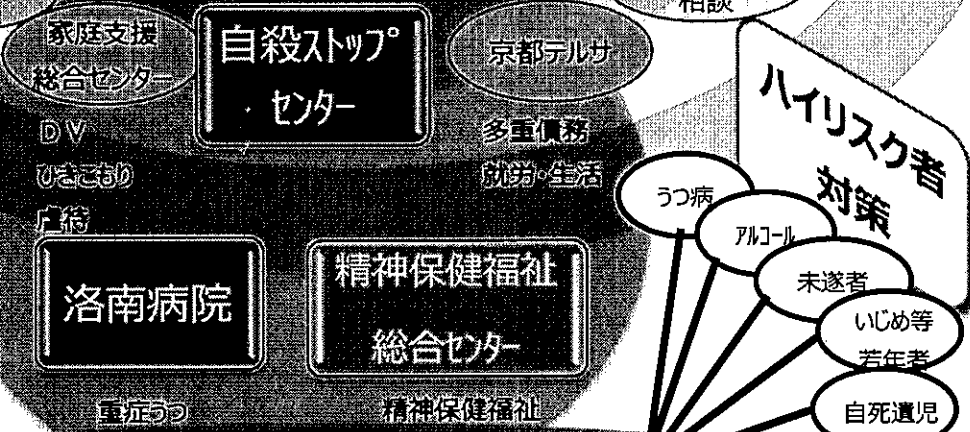
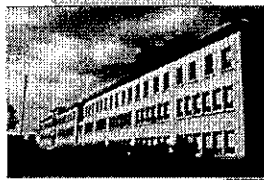
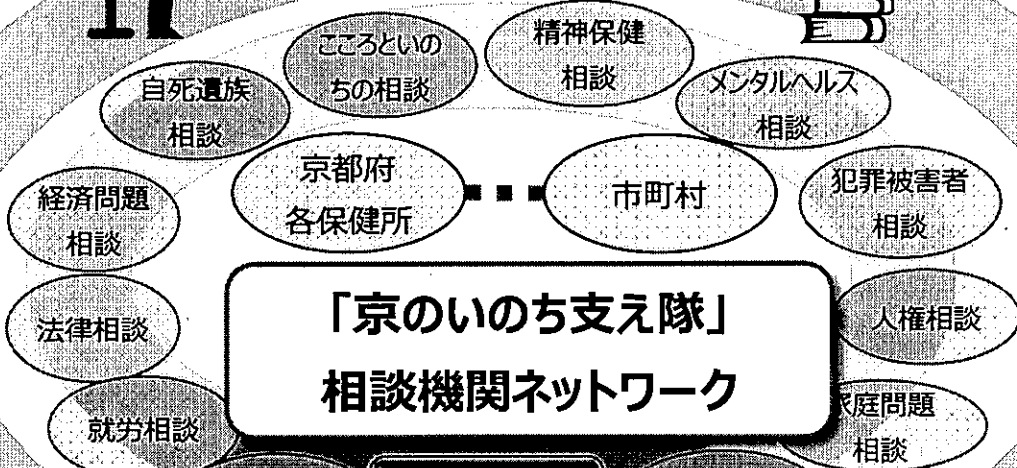


都道府県

条 例 制 定



悩みを抱えた方



重点モデル事業

地域課題に対応した効果的事業

市町村・団体支援

かかりつけ医
うつ病対応力研修

ゲートキーパーの養成

居場所づくり

きめ細かな寄り添い支援を担う人づくり